

2003 年度 委員会活動成果報告

(2003 年 3 月 29 日作成)

委員会名	建築教育の情報化小委員会	主 査 名：川角典弘
所属本委員会 (所属運営委員会)	情報システム技術委員会	委員長名：河村 廣
設 置 期 間	2001 年 4 月 ~ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	建築教育は情報技術による大きな変化が期待されつつも実際には情報化の範疇や教育すべき要件が定まらず、教育機関、企業教育担当者による試行錯誤が続いている。本小委員会は建築教育の情報化を目的とし、建築情報教育を支える技術の見極め、先端的教育事例の収集と紹介による啓蒙、さらには情報技術を利用したコミュニケーションとコラボレーションによる建築教育の方法について調査研究を行う。	
委員構成 (委員名 (所属))	主査：川角典弘(和歌山大) 幹事：松永直美(レモン画翠)・木村謙(早稲田大)・下川雄一(金沢工業大) 委員：衣袋洋一(芝浦工業大)・奥平与人(鹿島建設)・手越義昭(広島工業大)・小松喜一郎(早稲田大)・小瀬博之(東洋大)・中川 建(竹中工務店)・仲 隆介(京都工芸繊維大)・朝山秀一(東京電機大)・藤井修二(東京工業大)・柳田武(日本大)・両角光男(熊本大)	
設置 WG (WG 名：目的)	建築の情報技術検討WG (WG 主査 木村謙) ：建築教育に利用・応用ができてそうな技術シーズの調査。特に異分野、他業種で開発された技術や取り組みなど先端的な技術動向に着目し、建築教育分野での啓蒙や啓発を目指す。 デジタル教育環境研究WG (WG 主査 松永直美) ：教育機関、企業等における建築情報教育の事例収集及びアンケート調査。建築教育と情報教育の融合は暗中模索の状態にあり、教育機関や企業教育担当者もその実施方法を探りながら進めている状況である。この WG では、先端的な事例だけでなく、日常的な問題の掘り起こしも考えた建築教育の実践事例調査を行う。 コラボレーション研究WG (WG 主査 下川雄一) ：教育機関、企業等におけるコラボレーション教育や e-Learning などの情報化設計教育の調査。特に社会的要請、地域、設計実務等の範囲を越えた活動形態としてのコラボレーションを視座に置き、建築教育機関、企業、設計事務所、他業種等における事例研究と共に教育技術、環境の提案、高速なネットワーク環境を活かした遠隔地間設計演習、教育、ティーチングの技術や方法について調査、啓蒙を行う。	
2003 年度予算	350,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	小委員会の開催は、第 1 回 (2003 年 9 月 5 日・8 名) 第 2 回 (2003 年 9 月 22 日・7 名) 第 3 回 (2004 年 3 月 10 日・7 名) を実施。単行本出版の編集と出版会議、幹事会を数回実施。 2003 年 12 月に第 26 回情報システム利用技術シンポにて研究 PD を実施。
得られた成果	(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無) ○技術見学会：松下電工汐留サイバードーム技術見学 (先端技術の動向調査) 建築と教育の情報化に向けた技術シーズの掘り出しのため、技術見学会を実施。第1回は松下電工汐留ビルに設置されたサイバードーム (半球形状の投影スクリーンを持つ VR システム、http://shiodome.nais.jp/) で、参加者は小委員会 + 一般見学希望者あわせて約20名。解説は松下電工環境計画推進グループの福田知弘氏。室内空間設計や都市計画に関するシミュレーションの先端技術やノートPCで稼動する街路景観シミュレーション・システムを用いた住民参加による環境計画支援の事例を交えながら住民、学生参加による計画教育への応用について意見交換を行った。その後、汐留ビル内の情報化されたショールーム・オフィスを見学。

- 研究 PD:「建築を拓く - 次世代の設計教育と建築系プロフェッショナルの役割 - 」(第 26 回情報システム利用技術シンポ)

建築技術者の役割は情報技術によりこれから建築以外へと拡張するとの考えから、設計 + IT による教育者、建築を学んだ異分野の実務者を招き、事例紹介を交えたディスカッションを行った。

パネリスト、ゲスト・コメンテータは、松井龍哉氏(フラワー・ロボティクス㈱)、西村佳哲氏(リビングワールド)、本間里見先生(熊本大学)、松口龍氏(KAJIMA DESIGN)、中田千彦氏(a+u 編集部)、新良太氏(写真家)、滝口聡司氏(有)アパートメント代表)。

ディスカッションでは小委員会委員も参加して、情報化時代の建築教育は何を教えるべきか、また建築技術者の職能はいかにひろげられるべきかを討論。PD の参加者は約 40 名で、大学等の教育機関関係者、企業担当者、学生も参加。

- 単行本出版:「建築を拓く」、鹿島出版会による委託出版

情報化時代に建築を学ぶ人たちへ建築的思考やスキルが多様化する職能や他業種・分野での基礎リテラシーであることを伝える啓蒙書出版を計画。

(2004 年 5 月刊行予定) 建築の職能を拡げている実務者、教育者、建築系出身で他分野・異分野で活躍する人を中心にインタビューやヒアリングによる紹介と小委員会で行ってきたパネル・ディスカッションでの討論を交えた構成としている。

現在、原稿の集約と整理は進み、出版クレジットの作成、前書き、推奨文献リストの作成などが残されている段階。委託出版先の鹿島出版会にてレイアウト構成中。以下、予定している目次。

「建築を拓く 建築・都市・環境を学ぶ次世代オリエンテーション」

- PART1 オリエンテーション

対談 = 大野秀敏・古谷誠章(司会 = 両角光男)

「建築的思考を鍛えること、スキルを拡張すること」

論考 = 布野修司

「建築職能リノベーション時代—まちづくりにおける次世代アクティビティ: タウンアーキテクトの仕事」

- PART2 建築を拓く人たち

インタビュー: 建築を拓く 25 人のアクティビティ

- PART3 建築を拓くフィールド

1: 建築学習カリキュラムの変化

2: 建築的思考を拓くフィールド

3: メディア社会における建築の行方

4: 子供から大人までの建築学習

- PART4 建築を拓く人たちへ

抄録 = 「建築を拓く: 建築系プロフェッショナルによる次世代オリエンテーション」

1: 大江匡「建築とはフロントサイト・クリエイター」

2: 橋爪伸也「建築とは生活を創造・想像すること」

フロム・アンケート

- 付録

建築を拓く推薦図書リスト

クレジット

2004 年 5 月末には出版を記念したイベント(パネル・ディスカッション)を開催予定。

	○ 建築情報教育の現状調査計画の立案 これまでの委員会での議論を通じて、建築情報教育が技術革新により急速に変化している一方、十分な現状調査が行われていないとの認識にいたった。このため、現在、次年度実施に向けた建築情報教育の現状調査計画を立案しており、これまでの小委員会活動の成果とあわせて資料化を進めていきたい。 委員会 HP アドレス： http://news-sv.aij.or.jp/jyoho/M020/index.html
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) 建築教育と情報教育の境界領域を探り、現状の問題を明らかにしたいとの小委員会の活動目的に対して、先端技術の紹介や実務者との対談やパネル・ディスカッションでの意見交換を通じて当初目標は達成できたと考えている。また情報分野をフィールドとする小委員会ではオンライン掲示板による委員、WG 委員、パネリストによるプレ・ディスカッションなど技術的なアプローチについても一定の成果を挙げられた。 しかし、3 つある WG の活動範囲の見直しが必要との議論や通年での綿密な建築情報教育の現状調査が必要と考えている。
その他評価すべき事項	当小委員会は異なる地域・環境での教育の問題を探るために地方在住者が多く、委員全員が集まったの小委員会開催が難しいが、実験的に利用したオンライン掲示板などの IT 利用を積極的に進めている。